

川 根 本 町

2024年7月号

図 書 室 だ よ り

7月

- ・文化会館図書室(小長井)
- ・山村開発センター図書室(上長尾)
- ・移動図書館車やまびこ号:川根本町内6コース
TEL:0547-59-3106(文化会館)
TEL:0547-56-2231(山村開発センター)

- ☆ 開室時間:午前9時~午後5時
- ☆ 休室日:月曜日・第3日曜日(21日)・祝日の翌日(16日)
- ☆ やまびこ号巡回6コース



かわねフォン、町のホームページでご確認いただけます。
なお、年間予定表は図書室で配布しています。

新着 図書



「川根本町インターネット図書室」では
新刊の詳しい情報や 蔵書の検索が可能です。



川根本町
インターネット
図書室
ホームページ



図書だより
ブックナンバー



文

吉原泰典著
ダイヤモンド社



文

矢部太郎 著
新潮社



山

マナリスト研究会
文芸社



山

養老孟司 他多数 著
集英社



文

クリス・ウォーメル 作
徳間書店



文

柏葉幸子 作
高島純 絵
小峰書店



山

真珠まり 二作
講談社



山

えがしらみちこ 絵
子どもの権利・きもち
プロジェクト 文 白泉社

※新着図書、他多数あります。

◎ 新着図書

「川根本町インターネット図書室」では新刊の詳しい情報や蔵書の検索が可能です。

文化会館図書室所蔵	山村開発センター図書室所蔵
<p>● 『俺たちの箱根駅伝』 池井戸潤 著 文藝春秋 古豪・明誠学院大学陸上競技部。箱根駅伝で連覇したこともある名門の名も、今は昔。卒業を控えた主将・青葉隼斗にとって、10月の予選会が箱根へのラストチャンスだ。故障を克服し、渾身の走りを見せる隼斗に襲い掛かるのは、「箱根の魔物」……。</p>	<p>● 『魔女の後悔』 大沢在昌 著 文藝春秋 娼婦として売られた過去を持ち、闇のコンサルタントとして裏社会を生きる女・水原。ある日、13歳の少女・由乃を京都まで連れてきてほしいと依頼される。ボディガードとして同行するが、途中で由乃の亡父が韓国政財界を震撼させた巨額詐欺事件の主犯だったことを知る――。</p>
<p>● 『成瀬は天下を取りにいく』 宮島未奈 著 新潮社 中2の夏休みの始まりに、幼馴染の成瀬がまた変なことを言い出した。コロナ禍、閉店を控える西武大津店に毎日通い、中継に映るといのだが……。今日も全力で我が道を突き進む成瀬から、誰もが目を離せない！2024本屋大賞受賞作。</p>	<p>● 『二人目の私が夜歩く』 辻堂ゆめ香 著 中央公論新社 昼と夜で、一つの身体を共有する茜と咲子。しかし「昼」が終わりを告げたとき、予想だになかった「夜」の真相が明かされる――。</p>
<p>● 『それは令和のことでした、』 歌野晶午 著 祥伝社 小学生のときは女男と指をさされ、平穏を求めて入学資格に性別条項のない私立の中高一貫校に入るが、いじめはさらにエスカレート……それは僕の名前が太郎だから――（「彼の名は」）新しい価値観のゆらぎが生み出す7つの悲劇。</p>	<p>● 『22歳の扉』 青羽悠 著 集英社 京都の大学に入学した田辺朔。漫然と授業を受け、バイトをしているうちに1回生前期は終わってしまった。後期に入り、旧文学部棟の地下でひっそりと営業されているバーのマスター・夷川と出会い、朔の大学生活は一変した……。</p>
<p>● 『わたしの幸せな結婚8』 顎木あくみ 作 KADOKAWA 五道佳斗の父に対異特務小隊に誘われていた学生時代の清霞。夢と任務の狭間で起きた事件とは……軍人として生きる清霞の原点と「土蜘蛛」との因縁が明らかに。さらに美世と清霞の新婚生活をえがいた短編を収録。</p>	<p>● 『さまよえる神剣』 玉岡かおる 著 新潮社 「安徳帝は入水せず、三種の神器の剣とともに土佐山中に消えた」。伝承を信じて、後鳥羽上皇のため神剣探索の旅に出た忠臣・有綱。苦難の果てに帝一行が住み着いたという集落を発見するが、そこでは思いも寄らない運命が待ち構えていた……。</p>

おすすめ図書

『100年視力 よく見える目を長持ちさせよう』

深作秀春 著 サンマーク出版

目の寿命は延ばせる



【山村開発センター所蔵】

「目」は毎日もっともよく使う、複雑で高度な器官でありながら、外傷に非常に弱いむき出しの臓器。「光を取り込む」という役割から外にむき出しのままです。その大切な目を守るためにはいけない「4つ」のことが、

- ① 目をこすってはいけない
- ② 目を洗ってはいけない
- ③ 危険！網膜剝離を起こす”眼トレ”
- ④ 目は光にさらしてはいけない

著者の印象では、「20年ほど、毎日数時間もスマホを見る生活を続ける」と、若くても白内障や網膜黄斑部の光細胞障害を起こすと感じるそうです。

今の時代、スマホ等は無くてはならないものですが、必要以上に見ないようにしたり、幼い子どもをスマホやタブレットから遠ざけたり、積極的に目を休めてあげたりと、自分たちがしっかり努力していかなければ、危険にさらされた恐ろしい未来を乗り越えられないと思う今日この頃です。

図書室スタッフH